

東アジア企業論 East Asian Business	(教員名) 李 捷生	
アジア・ビジネス研究分野 中核科目	講義科目	選択
	1 単位	2018 年度・前期
I 科目の主題 近年、東アジアでは域内新規市場の成長とグローバル競争の激化に伴って、日系・欧米系多国籍企業と現地企業の経営システム（戦略と組織）と人材形成の仕組みが大きく変化している。本科目はそのダイナミックな変化に焦点を当て、域内多国籍企業と現地企業の動向を考察する。		
II 授業の到達目標 東アジアに進出している日系・欧米系多国籍企業と東アジアの現地企業の経営システムと人材形成の特質と相違点及びその変化動向を深く理解するようになる。		
III 授業内容・授業計画 1. 授業内容 本講義では東アジア地域に進出している日系・欧米系多国籍企業の経営システムの特徴を経営現地化問題との関連において検討すると同時に、東アジア現地企業の経営システムの変容と課題を域内多国籍企業との比較において明らかにする。なお経営システムの構成要素として事業戦略、内部組織と人材形成などを分析の焦点とし、経営システムの変化を規定する要因についてステークホルダー分析を重視する。以上を踏まえて、本講義は文献研究と現地調査の諸成果に依拠しつつ考察する。 2. 授業計画 (1) 東アジア企業の経営とステークホルダー 第1回 概要と視角 第2回 所有・経営関係：海外事業統括と進出方式 第3回 企業・従業員関係：人材形成と内部組織 第4回 企業・地域関係：地域間・企業間「複合的競争システム」 第5回 経営現地化問題：経営方式と人材育成方式の現地適応 (2) 多国籍企業の進出方式と現地化問題 第6回 欧州企業の事例 第7回 米国企業の事例 第8回 日本企業の事例 第9回 韓国企業の事例 第10回 台湾企業の事例 (3) 現地企業の成長戦略と経営システム 第11回 国有企業の事例 第12回 ベンチャー企業の事例 第13回 農村企業の事例 第14回 中小企業の事例 第15回 総括		
IV 事前・事後の学習内容 事前に授業で使用する資料の配布を通じて、専門用語等について事前に予習しておく。事後には授業を通じて理解できなかったことを書面で提出し、次回の授業のはじめに回答を行う。		
V 評価方法 レポート (70 点) と平常点 (30 点) によって評価する。		
VI 受講生へのコメント 事前に配布資料を予習し、専門用語などを調べつつ理解するようにする。		
VII 教材 教科書は指定しないが、参考文献は講義時に紹介する。		